



第1回授業研究・研修会を行いました

研究主題

「主体的に活動し 豊かな人間関係を築く 子どもの育成
～表現力とコミュニケーション能力を高める活動を通して～」

- 日時・場所 令和4年7月6日（水）
川崎市立小倉小学校 2年1組教室・2年3組教室（モニター視聴）
- 学年・単元名 第2学年 生活科「わくわくどきどきまちたんけん」 授業者 安西 学
- 本時の目標 友達の発表を見たり、自分たちの発表を工夫したりする活動を楽しみながら、地域には自分たちの生活と関わっている場所がたくさんあることを知ることができる。

授業の様子

「わくわくどきどきまちたんけん」おしらせCM

導入 これまでのまちたんけんの学習を振り返り、まちの人々が親切だったことやたくさんの人がさまざまな仕事をしていたことを確認しました。そして小倉のまちの素敵なところを、今年度異動してきた先生に発表するというめあてを確認して授業（発表交流）がスタートしました。子どもたちは緊張感を見せつつも、目を輝かせ意欲的な様子でした。

発表 杉山神社のグループ、こみね幼稚園のグループ、郵便局のグループ、小倉神社のグループの発表交流が行われました。発表はCM仕立てにして、働く人や利用者、子どもたちなどの役を演じながら、知ったことや分かったことなどを伝えていました。

聞き手は、次の4つの観点「動き」「言葉」「知りたいこと」「伝わったこと」を意識して見ることを確認し、感想を交流しました。子どもたちは初めて知る発表内容に興味を示し、新しい疑問が生まれたり、その場所へのさらなる愛着をもったり、自分達の発表意欲を高めたりした様子でした。

終末 誰に何を伝えたいのか、発表交流を参考に練り上げの練習に臨みました。どのグループも早く自分達の発表を見てもらいたいと熱心に取り組んでいました。

研究主題とのかかわり

今回の授業では、穴あき脚本（ちょこっとシアター）を使った活動を取り入れました。生活科の目標には「具体的な活動や体験を通して」とあり、「具体的な体験とは、例えば見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして直接働きかける学習活動であり、また、そうした活動の楽しさやそこで気付いたことなどを、言葉、絵、動作、劇化などの方法によって表現する学習活動である」とされています。子どもたちにとってなじみのあるテレビCM台本を作って演じる活動は、それぞれが調べて分かった情報を少人数で話し合い動作化することで、新たな気づきや考えの広がりを生んでいました。その姿からは対話的な学びが自然に見られました。また、表現活動を自由に楽しんでいた

様子からは、主体的に学習を進めてきたことが想像できる授業となっていました。

研修会・協議会

講師：原 千恵子（川崎市立中原小学校教頭）

助言者：渡辺 貴裕（東京学芸大学教職大学院 准教授）

授業後の研修会では、原 千恵子先生にファシリテーターをしていただき、参加者の先生方と「授業を追体験」しました。ウォーミングアップのゲーム（後だしじゃんけんや手のひらの小人、ジェスチャーで集まれ）では、心が十分ほぐれただけでなく参加者に一体感も生まれました。グループで劇を作る前準備として、心の状態を整えることの大切さも実感できました。

その後、グループワークに入りました。ちょこっとシアターの台本は穴あきになっていたのも、意見を交わしながら台詞を書き入れ、練習し、発表しました。こうした一連の体験により、学習に向かう子どもたちの気持ちを想像でき、活動の意義や指導のポイントなどを学ぶことができました。



協議会では、渡辺 貴裕先生のご提案で「経験を劇で表現・共有すること」のメリットとデメリットについて参加者で話し合う場をもちました。CM劇は、「大勢を相手に動画が配信できる。見直して何度も練り上げられる良さがある」フィジカルシアター劇やガイドツアー劇は、「相手とやり取りがしやすく、一体感を持ちやすい。体験を通して感情の共有ができる。その反面、大人数では厳しい」などの意見が出ました。また、授業中、アドバイスをする子どもの様子を見て、望ましいアドバイスのあり方についても考えました。普段、助言する立場にすることが多い私たちにとっては、気付きの多い話し合いとなりました。

《参加者のアンケートから》

- 子どもたち全員が楽しみながら、堂々と人前に立っている姿に驚きました。穴あき台本のようなフォーマットがあったり、普段の積み重ねがあったりするからこそその姿だと感じました。
- 子どもたちが生き生きと活動していることが伝わりました。発表会などの場以外で、表現活動を取り入れることの良さを感じることができました。
- 動作化（劇）で自分達の伝えたいことを伝えるのは、言葉で伝えることに課題のある児童でも気軽に表現できると思いました。
- 今まで表現活動を行ってこなかったので、新しい視点で学習について考えることができました。特に、子どもたちの活動を追体験することで表現活動の流れが分かり、とても勉強になりました。
- 実際に自分が体験したことで、学習カードや事前に調べた内容がいかに大切なのかが分かりました。グループで情報もちよって読み合い、内容を精選することで、さらに考えが深まると感じました。
- 追体験をして、大人でも楽しく学べたので、子どもにも有効だろうと感じました。子どもの実態に合いそうなので、明日から少しずつ取り入れてみたいです。

第2回授業研究会・研修会のお知らせ

日時：令和5年1月11日（水）

場所：川崎市立金程小学校

学年・教科：3年・国語科「モチモチの木」

教科のねらいを達成するための、演劇的表現活動を取り入れた授業実践を行います。